

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2019 年度事業計画

<基本方針>

助け合い支え合う地域社会を みんなの力で

<課題>

1. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します
2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます
3. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化をはかります

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 募集および申請状況

募集に関する広報は、当財団ホームページ、コープこうべホームページ、機関紙「きょうどう」で行いました。また、社協や行政その他の中間支援組織経由でのチラシ配布等を行い、下記のと通りの申請状況です。

県内9会場で開催した助成金説明会では、当財団の成り立ちや、助成の目的、特徴を理解いただいた上での申請をお願いしています。また説明会の後半に参加グループ同士の紹介・交流の時間を設け、ネットワークづくりの場としています。

	申 請 (グループ数 / 金額 (円))	助 成 (案) (グループ数 / 金額 (円))
福祉等	169 / 13,309,000	142 / 7,095,000
環境	24 / 2,517,000	21 / 1,645,000
合計	193 / 15,826,000	163 / 8,740,000

(2) 選考について

①選考基準

ボランティア活動助成の募集要項に、下記の選考基準を記載し、公開しています。

- ◇活動の公益性：課題把握、公益性
- ◇社会貢献度：活動の必要性、課題と活動との一致、地域密着度
- ◇活動の継続や発展性：運営能力、チャレンジ性、広報力
- ◇収支の妥当性：助成金使途の妥当性、適切な受益者負担、会計能力
- ◇循環型のしくみへの理解

②選考方法

助成検討委員には、選考基準に基づいて評価いただき、その評価点を事務局で集約しました。助成検討委員会（3月1日に福祉分野、3月7日に環境分野開催）では、その結果と、2019年度の助成予算を勘案しながら討議し、助成案をまとめました。

2019年度ボランティア活動助成は、2018年度から開始した少額助成「きらり助成」（上限1.5万円の助成）と、「ともしび助成」（上限30万円の助成）の2つの枠組みで募集を行いました。「きらり助成」については、コープこうべ地区本部長による選考会で第1次選考の後、助成検討委員会で協議しました。「ともしび助成」は助成検討委員会で選考、助成案をまとめました。

(3) 今年度の特徴

①「きらり助成」への申請が増加

この助成は少額助成ですが、申請書が「ともしび助成」に比べて枚数が少なく書きやすいこと、交通費や個人へのプレゼント代など、ともしび助成では対象外となる経費も申請できることから、2018年度のスタート時から好評を得ています。今年度は、これまで「ともしび枠」（財団からの助成を10回以上受け、かつ申請額が3万円未満）に助成申請していたグループが、枠の廃止に伴い「きらり助成」に変更したり、地域の小さな新規グループからの申請も増え、既存・新規合わせて、53グループがこの枠に申請しました。

②申請グループ数

申請グループ数は昨年と比べるとやや減少しましたが、2014年度からの大きな流れで見ると増加傾向にあります。新規申請グループ数も、同様の傾向です。

	申請件数					
	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
福祉	144	155	152	146	175	169(51)
環境	30	28	36	37	26	24(2)
合計	174	183	188	183	201	193(53)

※（）内はきらり助成数

	上記のうち、新規申請件数					
	2014	2015	2016	2017	2018	2019
	年度	年度	年度	年度	年度	年度
福祉	21	23	30	42	65	50
環境	4	3	9	7	5	6
合計	25	36	39	49	70	56

(表 1)

助成年度	申請金額 福祉分野	G数	平均申請金額 福祉分野	申請金額 環境分野	G数	平均申請額 環境分野	申請金額 全体	申請件数 全体	平均申請金額 全体
2012年度	8764000	135	64919	1583000	26	60885	10347000	161	64267
2013年度	10385000	141	73652	1971000	31	63581	12356000	172	71837
2014年度	11042000	144	76681	1804000	30	60133	12846000	174	73828
2015年度	12717460	155	82084	1649000	28	58893	14366460	183	78505
2016年度	13867000	152	91230	3183000	36	88417	17050000	188	90691
2017年度	13769000	146	94308	3372000	37	91135	17141000	183	93667
2018年度	15084600	175	86197	2618000	26	100692	17702600	201	88072
2019年度	13309000	169	78751	2517000	24	104875	15826000	193	82000

※2018年度から新設した「きらり助成」の新設により、平均申請金額は減少傾向。

(4) 2019年度助成(案)

分野別助成一覧

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	44	1,342,000	15.4
		障がい者	18	889,000	10.2
		地域住民	9	405,000	4.6
		在日外国人	2	271,000	3.1
		施設・病院	2	72,000	0.8
		その他(がん患者)	2	110,000	1.2
		合計	77	3,089,000	35.3
②	まちづくり		10	851,000	9.7
③	文化・芸術		3	84,000	1.0
④	地域安全		1	99,000	1.1
⑤	国際協力		3	258,000	3.0
⑥	子ども育成		47	2,672,000	30.6
⑦	環境の保全		21	1,645,000	18.8
⑧	その他(フードバンク)		1	42,000	0.5
合計			163	8,740,000	100.0

(5) 助成決定後のサポート

①財団スタッフによる訪問やヒアリング

可能な限り、助成グループを訪問し、助成グループのとらえている地域課題を共有化したり、困りごとの相談に応じます。

②ともしび通信や情報の提供

年4回発行の「ともしび通信」とともに、他の助成金情報、研修会の案内など、助成グループの皆さんに役立つ情報を送付していきます。

③交流会の開催

5月16日に全助成グループが集う「市民活動交流会2019」を開催し、情報交換や、地域課題の共有化を行います。また、希望により分野別交流・研修会を開催し、ネットワークづくりやステップアップの機会とします。

④ホームページでの助成グループ情報強化

2016年度から、全ての助成グループ情報をホームページに掲載しています。

2019年度もグループからイベントやメンバー募集などの情報を集め、同財団のホームページなどにタイムリーに掲載し、グループの広報をサポートします。

2. 社会人の学びと研究助成

(1) 2019年度助成への申請状況

「活動現場をすでに持っている社会人が、学びを深め、地域に還元するための助成」として募集したところ3件の応募があり、全件2次審査にすすみました。

(2) 選考方法・経過

①1次（書類）審査

3名の選考委員が研究・実践計画書を審査し、2次審査にすすむかどうかの判断をいただきました。→全件が2次審査へ

②2次（面接）審査

2月21日に面接で、研究目的、内容、成果の還元などを確認、不明な点の質疑応答の上、下記の助成案を決定しました。

(3) 助成（案）

お名前	在籍する大学院	研究内容
延原 宏 (15万円)	放送大学大学院 文化科学研究科情報学専攻 修士課程	ICT（通信技術を活用したコミュニケーション）による、地域活性化プロジェクトの実践と、授業モデルとしての教育効果
大島 賢典 (15万円)	神戸学院大学大学院 総合リハビリテーション学研究科医療リハビリテーション学専攻 博士課程	認知機能低下及び認知症患者における転倒リスクの検討～介護予防 日常生活支援総合事業対象者における歩行教室による運動機能への効果～

(4) 今後について

7月13日に前年度の助成対象者、末永美紀子さんによる公開報告会を開催する予定です。

同助成に対してはこの間応募が少なく、枠組みを変更するなど工夫しながら進めてきましたが、第3次中計の討議の中で、一旦中止することにしました。

3. 社会的課題解決にチャレンジする団体への申請募集と選考

(1) 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」助成3年目

財団と志を同じくする企業から寄付金をいただき、「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げ、2017年度に2件、2018年度は3件の助成を実施しました。

2019年度は新たに企業5社の賛同を得て、18社からの寄付総額は210万円、それに昨年度の未使用分22万円を合わせ、232万円の予算で助成を行います。

社会的課題を解決するために活動しているグループを対象とし、4月から募集を開始します。申請書による1次選考ののち、7月2日に公開プレゼンテーションによる2次選考を行います。2次選考会には、財団の運営委員や、外部識者、賛同企業の社員などに参加いただき、選考委員の皆さんで助成グループを選出・決定いただきます。

このプロジェクトで助成するグループは法人格を問わないものとし、社会的課題解決にチャレンジするグループに門戸を広げます。

●助成予算 232万円 上限 50万円/グループ

4. 高校生の心豊かな育ちとボランティア人材の育成支援

(1) 高校生がボランティア活動を通して心豊かに育ち、次代の地域の担い手になることを願い「ボランティアアワード」を実施

第3次中期計画の中で、若い世代のボランティア人材の養成が計画の柱の一つとして位置付けられました。これに基づき、2019年度から「高校生のボランティアアワード」（仮称）を実施します。

実施内容・要項については、現場の先生や、運営委員会で討議をすすめ、年度内の募集・決定を行います。申請書のみによる選考ではなく、参加者による活動交流を行い、互いに認め合う形でのアワードを目指します。

●顕彰予算 50万円

5. ネットワーク助成の検討

(1) 複数の団体によるネットワーク組織への助成実施の検討

これまで財団は、単体のグループ別に助成事業を実施してきました。しかし、地域課題は複数の団体がネットワークすることで解決につながるものが少なくありません。また実際にネットワークしている団体から、財団に助成を望む声もあります。

どんな形や枠組みでの支援が有効なのかを当事者や運営委員会とともに検討し、新たな助成制度を作ります。

6. 2020年度「ボランティア活動助成」に向けて

(1) 2020年度の「ボランティア活動助成」 説明会の実施と選考

2020年度助成に向け、「ボランティア活動助成」の申請に先立ち、下記9会場で説明会を行います。

説明会后、申請資料の受付を開始し、1月9日締切後、3月の助成金検討委員会で、2020年度助成案を作成します。

日時	開催エリア	会場（予定）
10/30（水）	神戸市 中央区	神戸市総合福祉センター
11/2（土）	神戸市 東灘区	コープこうべ 住吉事務所
11/5（火）	姫路市	姫路じばさんビル
11/7（木）	宝塚市	宝塚商工会議所
11/12（火）	篠山市	篠山市民センター
11/15（金）	西宮市	西宮市民会館
11/18（月）	三木市	コープこうべ 協同学苑
11/26（火）	明石市	ウィズ明石
11/29（金）	神戸市 東灘区	コープこうべ 住吉事務所

7. ひと育て、学びや交流の場の充実

（1）地域における仕事づくりや役割づくりの促進

先進事例についての報告・交流会や、視察等を行い、地域における仕事や役割づくりを促進します。

（2）ネットワークによる地域づくりの研究

ネットワークや連携による地域づくりについて、学び合うセミナーを開催し、次年度以降の助成につなげます。

（3）地域でのボランティアやくらしの課題の学びを支援

下記の4つの柱を基にした講座を開催するグループや団体を後援・協力します。

- ①ボランティア活動の裾野を広げる講座
- ②グループマネージメントを強化する講座
- ③ボランティアグループの技術向上と継承をサポートする講座
- ④社会的課題を考える講座

（4）社協と連携し、地域の活動者どうしの交流の場づくり

地域で活動するボランティアグループの交流のための試みとして、須磨区を中心に活動するグループ同士の交流会を7月に開催します。須磨区社協と協力し、社協に登録しているグループと、財団から助成を受けて活動しているグループ、コープサークルなどに声をかけ、地域のエリア内の交流会を実施します。

Ⅱ. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに広げます

1. 助成グループの活動を積極的に広報し、共感を広げる

①ツムギスト（広報ボランティア）の養成と活動を継続

グループを実際に訪問し、活動の状況や、活動によって地域や参加者がどう変化したかなどについて話を聞き、”物語“を紡ぐボランティア（「ツムギスト」）を今年度も養成します。ツムギストによる”物語“は財団のホームページや SNS で発信します。今年度はコープ職員だけでなく、助成グループ相互の取材も応援します。これまでの2年間の活動の中で、財団のツムギストとしての自覚を持ち、SNSなどで積極的に発信してくれる人が出てきています。

②助成グループの代表者を講師にした学習会の開催や広報ツールへの掲載

レインボースクールや地域の学習会で、財団について説明する際に、助成グループの代表者にも講師になっていただき、普段の活動について話してもらうことで、活動への共感者を広げます。

2. 「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」関連イベントの開催

①賛同企業とのコラボイベント開催

賛同企業とのコラボレーション企画として、地域の人が参加しやすいイベントを開催することで、これまで財団に関心のなかった層へ財団への関心を掘り起こします。また、賛同企業のとらえている社会的課題と、それらに対する貢献活動も広報することで、同プロジェクト全体への共感者を増やします。

2019年度は、「フジッコ株式会社」「UCC 上島珈琲株式会社」などとのコラボレーションで、食と環境の学習に取り組みます。

3. 第3次中期計画測定を機に財団のミッションやめざすものを地域に広報

①2018年度に策定した第3次中期計画について、冊子を作成し、中間支援団体、行政、ボランティア団体などに配布し、財団のビジョン、今後の取り組みを発信します。

4. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

①第3次中期計画について、完成した冊子をもとに、財団のミッションや目指すものを職員や組合員向けに発信していきます。

②コープこうべ職員教育プログラムを活用し、財団の取り組みへのコープこうべ職員の参加を促進します。

③財団のイメージDVDを、職員のチームで制作してもらい、5月の市民活動交流会と、秋の申請説明会で活用します。これは、コープこうべ職員のプロボノ活動として、職員研修と連携しながらすすめていきます。

④広報室と連携し、計画的でタイムリーなマスコミリリースを行います。

⑤財団サポーター（現在61名）の登録を増やし、広報活動への参加・協力を呼びかけます。

Ⅲ. 財団の基盤の安定化をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

財団に助成を求める新規グループは増加しており、今後ますます資金調達の必要性が高まっています。マイナス金利の続く中、債券運用はますます厳しい状況ですが、財団のミッションを果たすために、資金調達を強化します。

1. 資金調達の強化

(1) 2019年度 賛助会費・寄付・募金の目標

2019年度の賛助会費・寄付・募金の総合計 13,500,000円を目標とします。

(2) 法人からの寄付および法人賛助会員の募集の強化

「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、初年度賛同企業7社、寄付金額100万円からスタートしましたが、現在は18企業から総額220万円の寄付を得ています。そのため、法人からの寄付額は増えていますが、法人の賛助会員の拡大は進んでいません。2019年度はコープ協力会などで、賛同企業とともに新規の法人賛助会員への呼びかけも行います。

(3) 集中募金を年2回(6月、10月)実施

毎年10月、コープこうべの地域活動推進部が窓口になり、財団への集中募金に取り組んでいただいています。2019年度は特別に、財団への集中募金が6月と10月の2回実施されることになりました。良い機会として、募金の呼びかけを強化します。

(4) 「古本募金 きしゃぼん」のさらなる拡大

2016年7月にスタートした「古本募金 きしゃぼん」は財団らしい取り組みとして、徐々に参加者が増え、2018年度は約82万円の募金になりました。

古本回収ボックスを設置する事業所はコープの店舗等24か所に増え、地域のイベントの一つとしても取り組んでもらえるようになってきました。また、コープこうべ第6地区では、2019年度から地区として「きしゃぼん」に取り組んでくれることになりました。

2019年度は、さらに寄付額の増加をめざし、古本に加えて、書き損じハガキなどの回収も検討します。

(5) 先進事例の学習と検討

外部団体などによる資金調達の成功例について、ホームページやセミナー、訪問などにより、研究を進め、当財団でも可能なものについて検討します。

(6) 基本財産の運用

、運用規則にのっとり適性に運用していきます。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフの人材育成

第3次中期計画の実現のためには、財団のスタッフとして、ボランティアコーディネート力、ファンドレイズ力の向上が求められています。内外の研修へ積極的に参加することで、スキルアップを図るとともに、外部団体との交流の機会を増やし、ネットワークづくりを促進します。